

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	知北平和公園組合斎場	階数	2
建設地	愛知県大府市桜木町五丁目113番地7番	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	130人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	0	評価の段階	竣工段階評価
竣工時期	2025年12月 竣工	評価の実施日	2023年11月30日
敷地面積	14,735 m ²	作成者	石本建築事務所 柳美香
建築面積	2,164 m ²	確認日	2023年11月30日
延床面積	3,178 m ²	確認者	石本建築事務所 本村雅昭



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	78%
③ 上記+②以外の	78%
④ 上記+	78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目

<h4>① 地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③ 敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>54.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	54.5 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	54.5 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>② 資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④ 地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用
Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
知北平和公園組合斎場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境								3.4
1 音環境								3.0
1.1 室内騒音レベル			0.1	3.0	0.15	-	-	3.0
1.2 遮音			3.0	3.0	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能			0.4	3.0	0.40	-	-	-
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.60	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0	0.40	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-
1.3 吸音			-	3.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境			0.3	3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御			0.5	3.3	0.50	-	-	-
1 室温			3.0	3.0	0.38	-	-	-
2 外皮性能		個別空調により各ゾーンで冷暖房が選択可能	3.0	3.0	0.25	-	-	-
3 ゾーン別制御性			3.0	4.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式		お別れ室は床吹き出し空調とする	3.0	5.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境			0.2	3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 昼光利用			0.3	3.4	0.30	-	-	-
1 昼光率			3.0	3.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		トップライト、ハイサイドライト	3.0	4.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策			0.3	4.0	0.30	-	-	-
1 昼光制御		建物周囲に庇	5.0	4.0	1.00	-	-	-
3.3 照度			3.0	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.25	-	-	-
4 空気環境			0.2	4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策			0.5	4.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質		内部は全てF☆☆☆☆、化学物質濃度測定を実施。	3.0	4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気			0.3	3.3	0.30	-	-	-
1 換気量			3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能		お別れ室、待合室に開閉可能な窓を設置	3.0	4.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理			0.2	5.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		建物内禁煙とする	3.0	5.0	1.00	-	-	-
Q2 サービス性能			-	-	0.30	-	-	3.6
1 機能性			0.4	3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性			3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 高度情報通信設備対応			3.0	3.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性			0.3	4.3	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース		休憩室を設置	3.0	5.0	0.33	-	-	-
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画を実施	3.0	5.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理			0.3	4.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材を採用	3.0	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		各階に管理用倉庫と清掃流しを設置	-	4.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性			0.3	3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.8	0.48	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数1.25	3.0	4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.3	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:御影石65年	-	5.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水配管はB又はC	-	4.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性			0.1	3.6	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		浄化槽に排水の貯留が可能	3.0	4.0	0.20	-	-	-
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	②	耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		ケーブルTVを設置	3.0	4.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			1F5.0、2F4.1m		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.21	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性		②		0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40	-	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出		独自③	自生種に配慮した緑地づくり		4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	植栽と建物の屋根により良好な景観を形成		5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			大きな庇や樹木の影により日影を形成している		4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.51	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓や節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.7	0.63	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	床:ビニル床タイル、床:ビニル床シート、天井:岩綿吸音板	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装が乾式工法で分別性に配慮	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.9	0.22	-	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない接着剤等の採用	3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ノンフロン型吹付硬質ウレタンフォームを採用		4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率78%		3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	十分な駐車場と車寄せスペースの確保		4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			法規制より1段階上の2/3時間を満たす		4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告照明設置なし		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
知北平和公園組合斎場

竣工段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.12	外構緑化:54.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 知北平和公園組合斎場

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・最後のお別れの場としてふさわしく、遺族のプライバシーが確保された施設 ・将来の火葬需要や葬儀ニーズの変化に対応可能な施設 ・人にやさしく、誰もが利用しやすい施設 ・環境にやさしく、災害時に備えた施設 ・周囲の風景と調和する2階建ての斎場 ・斎場にふさわしい格調高い空間、機能的な配置計画
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・直射光を遮る大きな庇を建物4周に回すとともに、内部空間に天空光を取り入れるトップライトやハイサイドライトを設置している。 ・線香の煙をきれいに見せるためにお別れ室の空調は床吹き出し空調とする。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・会葬者が一人になれるラウンジ空間や職員の休憩室を設けている。 ・内装計画は地域の緑豊かな風土や人々の歴史の積み重ねを表した土着的な内部空間としてエントランス空間を中心に左官仕上げを使用している。また、勾配状の木の軒天材が外部から内部の天井へ連続していくことで内外の連続性を感じる空間としている。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の樹木を最大限残す配置計画とするとともに、新たな植栽で修景することにより、緑豊かな環境となっている。 ・隣接する墓地からの景観に配慮し、なるべく建物高さを抑えるとともに、墓地側からの景観に配慮した植樹を行っている。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイサイドライト等による自然採光を行っている。 ・お別れ室や待合室には手動で開閉できる窓を設置している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・内装材にリサイクル資材を採用している。 ・節水型の衛生設備を採用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な駐車場や車寄せスペースを確保し、周辺の交通負荷を低減している。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・火葬件数に合わせて待合ゾーンの稼働範囲を縮小することで、光熱費が低減できるようにしている。 ・火葬炉の維持管理や更新に配慮したサービスヤードや増設スペースを設けている。